

# 日本語と日本文学

## 第 27 号

- 
- 『万葉集』の仮名表記……………奥田 俊博……(1)  
 ——表意性を有する例を中心に——
- 「堀河百首」における「相模集」の受容について  
 ……………渦巻 恵……(15)
- 『浮雲』の中絶の問題をめぐって……………鄭 炳浩……(25)  
 ——〈意〉と〈形〉の狭間で——
- 『三四郎』冒頭部における「ベーコンの二十三頁」  
 のもつ意味と機能……………呉 俊永……(41)  
 ——『三四郎』論序説——
- 古典典故に言及する小説の語り……………下西善三郎……(55)  
 ——芥川龍之介『芋粥』——
- 湯浅克衛文学と母胎としての「水原」……………南 富鎮……(65)  
 ——『カンナニ』を中心に——
- 純粹志向の文学言説……………中根 隆行……(75)  
 ——佐藤一英「純粹童話」の提唱とその周辺——
- 「文学」を理解させる「国語教育」とは……………石塚 修……(87)  
 ——西尾実の文学教育論と「比べ読み」を応用して——
- 
- 副詞一語文に関する意味と自然さの計量的研究  
 ……………小池 康……(左1)
- 

平成 10 年 8 月

筑波大学国語国文学会

## 投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（一万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

二、原稿は切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305-0006 茨城県つくば市天王台一―一―

〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

## 投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実

は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承ください。

## 編集後記

今号は投稿論文が多く委員会としてはうれしく思います。そのために、次号回しになった論文もありますが、今後も同じような傾向が続いてくれることを祈ります。ただ文学・国語教育に比べて言語の論文の投稿の少ないのが気に懸ります。言語学関係の学徒の積極的な参加を願います。それとともに、本誌読者にお願ひしたいことですが、掲載された論文に対して忌憚のない御

批判をお寄せ下されば幸いです。本誌編集委員あてで結構です。論文執筆者にとつて批判は今後の研鑽の上でなにより励ましになるからです。学術雑誌としての充実、執筆者と読者の相互の学的対決にあると思うのですが、いかがでしょうか。次号の投稿に期待しながら…。

（名波 弘彰）

平成十年八月三十一日印刷  
平成十年八月三十一日発行

305-0006 茨城県つくば市天王台一―一―

〒筑波大学 文芸・言語学系内  
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 北原保雄  
印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel 〇二九八(五二)七六五二